

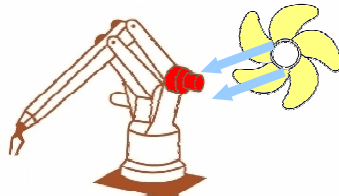
生産設備の冷却・加熱温度が過剰になっていないか確認しましょう。

ロボットやモーター、軸受などの生産設備への冷却が過剰になっていないかチェックしましょう。
また、生産量や製品温度などの状況に合わせて設備の設定温度等を適正に見直しましょう。

生産設備への過剰な冷却

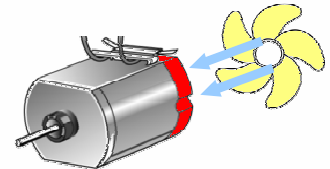
対策例

ロボットへの冷却



全体を冷却せず負荷が高い軸のモーターだけを冷却する

モーターへの冷却



モーターなどは、エンコーダ部分を中心に冷却する

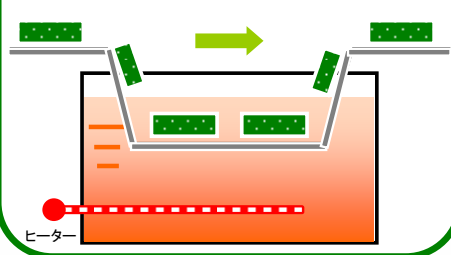
省エネ対策のポイント

- ・ 過負荷にならないように、夏場の最高気温時を基準に冷却条件を決めましょう。
- ・ 季節ごとに冷却条件を見直すことが大切です。

加熱設備の設定温度の見直し

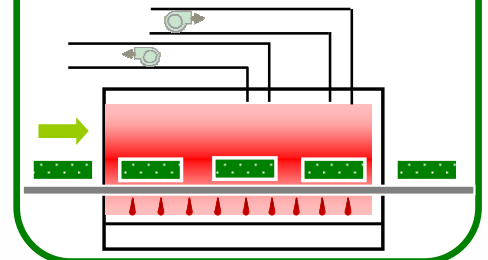
対策例

各種洗浄機



設定温度低減
例：60℃ → 55℃

各種乾燥炉・熱処理炉



設定温度低減
例：800℃ → 750℃

省エネ対策のポイント

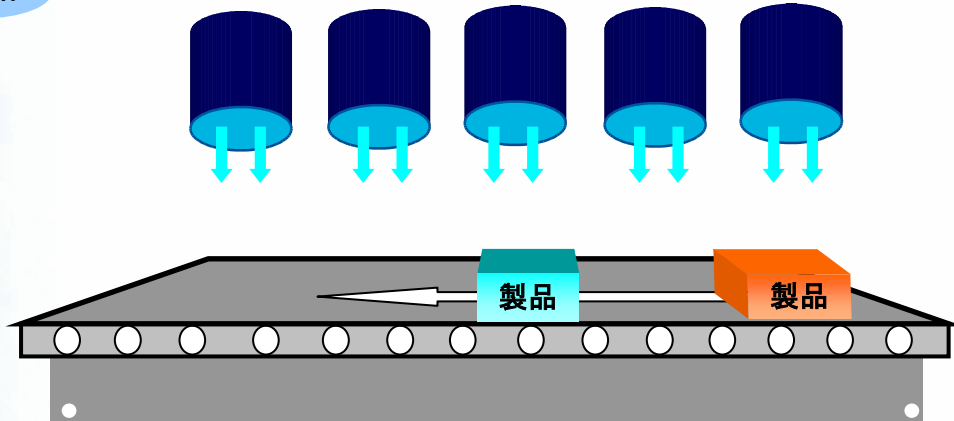
- ・ 洗浄機（循環加熱式）の設定温度を下げることで、ヒートポンプやヒーターの消費電力を削減できます。
- ・ 乾燥炉や熱処理炉の設定温度を下げることで、炉の消費電力を削減できます。
- ・ 製品品質への影響を確認しながら設定温度を見直しましょう。



製品の過剰な冷却の見直し

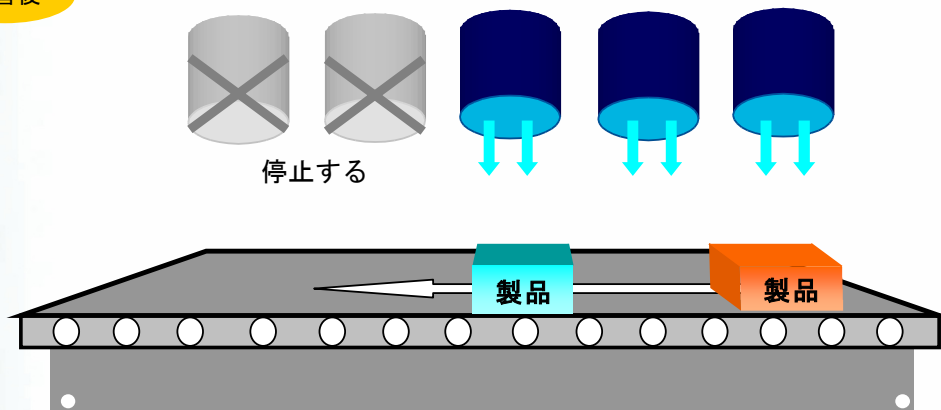
対策例

改善前



冷却工程において、製品の搬送途中で既に目標冷却温度に達している

改善後



冷却工程内の各ゾーンでの製品温度を確認し、目標冷却温度に達したゾーンより下流の冷却設備を停止する

省エネ対策のポイント

- ・ 製品内部まで十分に冷却されていない場合は、表面温度が再び上昇することがあるため注意が必要です。
- ・ 冷却装置がインバータ化されている場合は、周波数を下げることで消費電力の削減ができます。